

5年

	<p>①学習指導に関する現状と課題を書きます。</p> <p>②具体的な授業改善策を書きます。</p> <p>③補充・発展的な学習指導の計画を書きます。</p>
国語	<p>①7月の都の学力調査の結果では、どの内容でも東京都の正答率を上回っているが、「話す・聞く」「書く」「言語」に比べて、「読む」の正答率が低かった。設問内容を理解し、叙述を基に根拠を明確にして正しく読み取ることが課題である。</p> <p>②授業の中で根拠を明確にして自分の考えをもち、自分の生活経験や既習事項を基にした理由付けを行いながら、自分の考えを表現できるようにする。</p> <p>③朝読書等の時間を確保することによって、多くの語彙や表現に触れる機会を増やし、正しく読み取ることができるようにする。補充・発展的な学習指導として、ベーシックドリルを活用する。</p>
検 証	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述を基に、根拠を明確にして理由を述べることに重点を置いて指導を行った。 ・教科書の文章を根拠に、筆者の考えと自分の考えを比較したり、3人グループで捉え方を話し合ったりして、文章を自分の力で読み取れるようになってきた。 ・語彙数をさらに増やすため、今後、辞書などを活用し、意味をつかむだけでなく同音意義語などを考えさせて、知識を確かなものにしていく必要がある。
社会	<p>①7月の都の学力調査の結果ではどの内容でも東京都の正当率を大きく上回っているものの、「知識・理解」が低い結果となっている。都道府県や東京都23区の位置、自分が住んでいる市の位置関係など地理的な学習に課題がある。</p> <p>②日本の国土や身近な地図の読み取りの学習を多く取り入れる。また提示資料から概要や示されている数値等を正しく把握させるとともに、内容を比較・関連付けて読み取ることができるような指導をしていく。</p> <p>③日常生活で起きている社会的事象について新聞等を活用しながら話題として取り上げ、社会科の学習と関連付けて考えていくことができるようにする。</p>
検 証	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取りでは、国語と関連させ、根拠を明確にして説明する指導を行った。 ・複数の資料の数値や価値を比較、関連させて推測する力を付けていくことが課題である。 ・変容を捉えたり、複数の資料を比べたりする読み取りについては、これからも継続して指導をしていく。
算数	<p>①7月の都の学力調査では、どの内容も都の平均を超えていたものの、成績の下位の人数が目立った。成績下位層の学力の底上げをする必要がある。</p> <p>②基礎・基本の力を身に付けるために、授業中に演習問題に多く取り組んだり、学び合いを通して、個別に課題を解決していったりするなど、授業形態を今まで以上に工夫する必要がある。</p> <p>③東京ベーシックドリル、ワークシート等を活用し、学習した内容をしっかりと定着させていく。また、習熟が不十分な児童には、授業外に個別指導の時間を設けることで、復習を行う。</p>
検 証	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を多く取り組むことや、筋道を立てて説明させるように授業改善を行った。また、思考力を高められるような課題を工夫したり、児童が興味をもつような課題を出したりしていることにより、児童が考えたいと思えるような授業改善を行い、学力向上につなげることができた。
理科	<p>①7月の都の学力調査では技能を問う問題の正答率が低かった。児童自らが目的意識をもって、観察、実験器具を繰り返し操作する機会が少なかった。</p> <p>②基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を重視するとともに、観察、実験器具に触れる機会を増やしたり、実験器具の機能を理解して操作したりする学習指導を充実させる。</p> <p>③課題解決型の学習指導計画を立案・実践し、児童一人ひとりが目的意識をもって、実験や課題に取り組めるようにする。科学的読み物の紹介をしたり、ニュースや新聞からトピックスを紹介したりすることによって日常生活の中でも科学にふれる場を設ける。</p>
検 証	<ul style="list-style-type: none"> ・「科学的な思考・表現」に関する力を高めようと、どのような実験方法にするべきか、課題は何かを子供たちに考えさせるように指導してきた。 ・電磁石の仕組みや流れる水のはたらきなどの用語だけでなく、しくみを正しくとらえられるよう、観察・実験を丁寧に行ったり、復習したりしながら指導をした。 ・学習した内容と身の回りの生活の現象をつなぎ、どんな場面で科学の力が活かされているか捉えられるようにした。
音楽	<p>①意欲的に取り組む児童が多い中、前向きになりにくい児童もいる。リコーダーや鍵盤ハーモニカの力量には個人差があり、正しい奏法が定着していない児童がいる。</p> <p>②連合音楽会に向けて学年合同で授業を行い、全体の集中力を高めていく。希望者による歌リーダーの練習と、各楽器のパート練習を休み時間等に行い、個別に声をかけながら意欲と技能を高める。</p> <p>③個別指導を休み時間等に行う。</p>
検 証	<p>学年合同の授業と個別指導の組み合わせにより、個人の技能が上がった。ペアで歌い方を工夫し合ったり、楽器のパート別にグループ指導をする中で、互いに聴き合う力がついた。</p>

<p>図工</p>	<p>①意欲的に取り組む児童も多い反面、じっくり取り組めない児童や発想や技術的なことに苦手意識をもつ児童も見られる。また、技能面、発想面共に個人差が大きくでている。</p> <p>②児童の作品につながるような情報や資料の提供、説明を分かりやすく、単純化細分化し、繰り返し行っていく。道具を使用する機会を増やし、さらに技術が発展していくようにする。</p> <p>③ 休み時間や放課後の時間に少人数での指導を行い、一人一人を丁寧にみる時間をとる。</p>
<p>検 証</p>	<p>様々な制作活動を通して、興味・関心を深め、集中して取り組める児童が増えてきた。発想面や技術面で苦手意識をもつ児童もいるので、引き続き個人のペースに合わせながら、指導を行っていく。</p>
<p>家庭</p>	<p>①意欲的に活動しようとする児童が多い。しかし、裁縫や調理などで基本的な技能を身に付けるまでに反復練習が必要であり、定着までに時間がかかる。また、個人差も大きい。</p> <p>②玉止めや玉結び、野菜の切り方などについて、間近で手本を見せたり、手を持って一緒にやったりするなど、示範しながら具体的に指導する。手順や方法を掲示し、いつでも確認できるようにする。また、指導中は巡回して個別に支援する。</p> <p>③学習した内容を家庭でも実践させる。基本的な技能が難しい児童には、放課後などの時間を使い、個別に指導を積み重ねて定着させる。</p>
<p>検 証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は意欲的に取り組むが、裁縫や調理にあてられる時間が少なかったため、技能の向上が難しかった。 ・知識についても、生活に関することが多く、生活経験や家庭環境の違いから、より個人差が大きく表れた。実態に応じて分かりやすい指導法や教材を工夫していく必要がある。
<p>体育</p>	<p>①マット運動や跳び箱運動、水泳といった運動技能の習得について、個人差が大きい。</p> <p>②学習の始めに、個人のめあてを考えさせることで目標を具体的に明確にし、その達成に向けてどのような練習をしていくか見通して学習するよう指導する。また、児童相互で学び合い技能を高めていく授業形態も取り入れていく。</p> <p>③発展的な学習として難易度を一段階上げた技などを紹介し、努力目標をより高く設定する意欲を培っていく。補充的な学習として、休み時間などを活用し身体を動かすことで体力の向上を図る。</p>
<p>検 証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・走り幅跳びやハードル走など、走力で差が出る陸上運動も、走力に応じて目標値を設定したり、児童のめあてに合わせた練習方法を提示したりすることで、全体的に記録は向上した。 ・器械運動では難易度の高い技にも挑戦する意欲的な児童が増えてきた。しかし、技能の習得についてはばらつきが見られた。休み時間や放課後に身体を動かす機会が少ない子の技能の習得が不十分なので、運動の日常化が今後の課題である。